

# 東都医療大学図書館通信(深谷キャンパス)

～ 明けましておめでとうございます。皆さまのご多幸を心よりお祈り申し上げます。～



## 2019年の幕明けです



### 1. 歴史の節目となる年

平成から新しい元号へ変わる2019年。改元という歴史の節目に立ち会えることは、私たちにとって大変貴重な経験かと思われます。

さて皆さんは、天皇陛下が普段どんな仕事をなさっているかご存知でしょうか? ①憲法に定められている「国事行為」、②憲法には定められていないけれども、象徴という地位に基づき公的な立場で行う「公的行為」、③「その他の行為」、と主にこの3つに分けることができます。天皇陛下は毎週火曜日と金曜日の午後、①の国事行為の大部分を占める「執務」と呼ばれる公務をされています。「執務」とは書類の決裁を行なうことで、閣議などを経て、内閣から宮内庁に届いた書類のすべてに目を通し、署名捺印をされています。その量は膨大で、年間1,000件以上にもなるそうです。執務の曜日・時間の決定は、(原則として)火曜日と金曜日の午前中に閣議が開かれるため、天皇陛下が地方をご訪問中のときなどは、閣議後、内閣府の職員が天皇陛下のいらっしゃる現地までその日のうちに書類運び、ご決裁いただくのだそうです。

たびたびテレビで放送される天皇陛下のご様子は、公務のほんの一部にしかすぎません。天皇陛下や皇室の方々がどのような仕事をされているか、この改元を機に勉強してみたいかたがでしょうか。



参考：講談社現代新書『天皇陛下の全仕事』  
(山本 雅人・著/講談社・刊)

### 2. ラグビーワールドカップの開催

2019年はラグビーワールドカップが日本で開催されます。深谷市に隣接している熊谷市はラグビータウンとして知られており、熊谷ラグビー場でもワールドカップの試合が開催されるそうです。ラグビーの試合を実際に観戦すると、選手の迫力や競技の激しさに圧倒され、一種の格闘技のような印象を受ける方も多いでしょう。

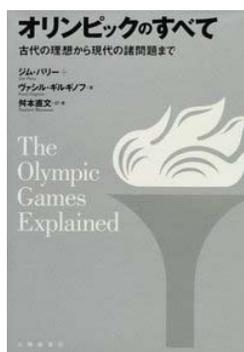
ところで皆さんは、ラグビー誕生秘話「エリス伝説」をご存知でしょうか。ラグビーは1823年、英国のラグビーという町にあるラグビー校のグラウンドで誕生しました。当時、このグラウンドで(現在のサッカーに近い)フットボールをプレイしていたウィリアム・ウェッブ・エリスという少年が、ルールを忘れ、ボールを手に持って走ったことがラグビーの始まりと言われていいます。この逸話の真偽について決定的な証拠は得られていないそうですが、それでもラグビーの特徴である「ボールを手に持って走る」というスタイルの起源について、現在も語り継がれている有名なエピソードです。ボールが楕円形であったり、スクラムが行なわれたり、個性的なスタイルを多く有するラグビー。このワールドカップを機会にいろいろ調べてみるのも面白いかもかもしれませんね。



参考：中村敏雄著作集第8巻『フットボールの文化論』  
(吉田 文久・編/創文企画・刊)

### 3. 脚本家・宮藤官九郎さんによるNHK大河ドラマ『いだてん』

翌2020年に東京オリンピックを控え、NHKでは大河ドラマ『いだてん～東京オリムピック噺』が1月6日から放送されています。このドラマは、オリンピック(1912年ストックホルム)に初参加した金栗四三さんと、オリンピック(1964年東京)を日本に招致した田畑政治さんの二人を主役とし、オリンピックに関する歴史を交えながら宮藤さんによる脚本でドラマが描かれます。主演の中村勘九郎さんや阿部サダヲさんをはじめ、演者の皆さんが宮藤さんの脚本とどのように共鳴し、どんなドラマを繰り広げていくのか、今後期待が高まります。ではオリンピックの話を少しだけ。オリンピックには「古代オリンピック」と「近代オリンピック」とがあり、前者は紀元前776年から紀元393年まで4年ごとに開催された「オリンピア祭典競技」(近代オリンピックの前身と言われています)、後者は1896年にアテネで開催された第1回から始まった大会を指しています。古代オリンピックが宗教行事であったのに対し、近代オリンピックは世界平和を目的としたスポーツの祭典として催されおり、現在に至っています。オリンピックの歴史の長さに驚嘆しますね。



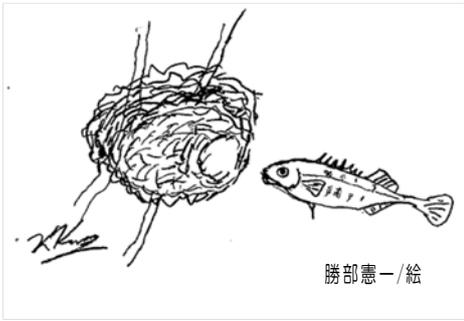
参考：①『オリンピックのすべて』(シム・パリー他・著/大修館書店・刊)  
②NHK『いだてん～東京オリムピック噺』(はなし)～

### 4. カルピス誕生100周年

あの甘酸っぱくホッとする味——カルピス。1919年7月7日に誕生してから、今年でなんと100年目を迎えます。皆さんご存知でしたか? カルピスの生みの親は、三島海雲(みしまかいうん)という当時教師をされていた方です。三島さんは1902年に中国へ渡り、その後内モンゴルを訪れた際にカルピスの原点となる飲み物に出合います。その飲み物こそ『酸乳』です。酸乳とは、牛や馬の乳を乳酸菌で発酵させた酸っぱいミルクのような飲み物で、その美味しさに三島さんは魅了されます。また、この酸乳は美味しいだけでなく、疲労回復にも効果があることを身をもって経験した三島さんは、乳酸菌研究を一念発起。帰国後に研究を重ね、「カルピス」を誕生させるのです。なお、「カルピス」の「カル」はカルシウム、「ピス」はサンスクリット語のサルピスに由来します。また、パッケージの水玉模様はカルピスの誕生日にちなみ、七夕の天の川をイメージしているそうです。青と白のコントラストは爽やかなカルピスにぴったりですね。



参考：『カルピス社員のとおきレシピ』  
(カルピス株式会社・監修/池田書店・刊)



勝部憲一/絵



## ムサトミヨという魚を知っていますか

ヒューマンケア学部 教授 勝部憲一

今年のヒューマンケア学部看護学科1年生は大学入門講座で、深谷市の成り立ちを自主学習する機会がありました。私もその支援教員として参加して深谷の知らなかった面を色々知ることになりました。その中で思い出したのが、「よみがえれ ムサトミヨ」(国土社(1995/09))です。トミヨという淡水魚をご存じでしょうか。数cm程度で成魚になる小さな魚で、トゲウオ科に属します。この科は名前の通り棘があり、また巣作りをする変わった性質があります。そして清浄な冷水を好む魚で、北極圏周囲の寒冷な地域に分布し、北海道では普通に見られますが本州では北日本の湧水地に限られます。実はムサトミヨは日本での南限域に住むトゲウオなのです。昔関東西部に広くいたようですが、今は熊谷市にしか生息しません。それでも昭和初期は荒川流域の湧水に結構いたのですが、昭和40年代から急速に減少しました。最大の理由は熊谷市から深谷市にかけて移転してきた工場群が地下水を大量にくみ上げたためです(新幹線沿いに沢山あります)。そのため荒川流域の伏流水に起源する各地の湧水が減少し、ムサトミヨは激減しました。昔は他の魚を捕る網に沢山引っかけり、小さくて棘があるのではずすのに難儀したようですが今は影も形もありません。絶滅寸前になったムサトミヨを何とか復活させたいと、その保護の歴史を追ったのが本書です。今は埼玉県水産研究所熊谷試験地の跡地に熊谷市がムサトミヨ保護センターを設立し(熊谷外科病院近く)、この貴重な魚の保護にあたっています。昭和の高度成長期に犠牲になった自然環境はたくさんありますが、今我々はそれらをどの程度取り戻せたでしょうか。ムサトミヨがいてもいなくても我々の生活は変わらないように思えますが、この魚が地下伏流水という重要な環境のバロメーターであることを忘れてはなりません。工場の建設は莫大な税収で熊谷市や深谷市の発展に貢献してきましたが、海外などへの拠点移転で今次々と閉鎖されています。しかしながらムサトミヨは依然として保護された一カ所にしか生息していません。国立公園のような特別な自然環境でなくとも、我々の生活と関わる平凡な環境でも一旦失われたものを復活させるのは意外に難しいのだと実感します。この本は児童向けに書かれたものですが、大人にとってもこの地域の環境保全を理解するという意味で貴重な本です。

さて、私が本学深谷キャンパスに着任したのは東日本大震災後の2013年春で、その年の図書館運営委員会・委員長を仰せつかりました。この時、先生方のメッセージを図書館通信で紹介してはどうかと提案させていただきましたが、早いもので6年が経過します。毎号先生方をお願いして寄稿していただく図書に関する随筆には必ず目を通してあります。もう本当に色々な想いや経験談が述べられていて驚く事ばかりですが、先生方全員が本に対する熱い愛着を持たれていることがよくわかります。手前味噌になってしまいますが、先生方のこういう知られざる側面に光を当てることができて本当に良かったと思っています。また、当初から献身的に編集に当たってくれている司書の長塚様には改めて厚く御礼申し上げます。



## 新・北斎展 HOKUSAI UPDATED



葛飾北斎、と聞いて思い浮かべる作品は何ですか? “GreatWave”として世界的に有名な「神奈川沖浪裏」や“赤富士”と称される「凱風快晴」を思い浮かべる方が多いでしょうか。実は、これらの作品を含む「富嶽三十六景」シリーズや北斎を代表する錦絵の数々は、彼が70歳を過ぎてからのわずか4年間で作成されたと言われていました。これらの作品は、彼の画業人生約70年のほんの一部にしか過ぎず、彼の魅力を語るためにはまだまだ多くの作品が存在することが明らかになっています。北斎に関する調査研究は、その道の第一人者である永田生慈氏によって進められ、次々と解明された北斎像の集大成がこの展覧会で公開されています。初めて披露される作品も多く、必見です。20歳で浮世絵界にデビューしてからたびたび画号や画風を変え、常に新生を重ねてきた葛飾北斎。まだ知らない彼の魅力に心奪われること間違いありません。

(上) 葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」大判 天保初期(1830-34)頃 鳥取県立美術館(新庄コレクション) (展示期間 2月21日(木)~3月24日(日) ※1月17日(木)~2月18日(月)は日本浮世絵博物館の作品を展示) / (下) 葛飾北斎「富嶽三十六景 凱風快晴」大判 天保初期(1830-34)頃 鳥取県立美術館(新庄コレクション) 展示期間 1月17日(木)~2月18日(月)

会場: 森アーツセンターギャラリー(六本木ヒルズ 森タワー52階) 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 会期: 2019年1月17日(木)~3月24日(日) ※会期中、展示替えがあります。 休館日: 1月29日(火)、2月19日(火)、2月20日(水)、3月5日(火)  
観覧料: 一般 1,600円 / 高大生 1,300円 / 小中学生 600円 ※障がい者手帳をお持ちの方と介助者(1名まで)は当日料金の半額。展覧会公式サイト: <https://hokusai2019.jp/>  
お問合せ: 03-5777-8600(ハローダイヤル)

《深谷限定》看護・栄養・医療系図書が  
10%OFFで購入できます!

### 展示販売のお知らせ

展示販売	納品
------	----

1~3月は展示販売を休止しています。  
4月中旬~下旬頃に再開予定です。

\* 展示販売休止中も、図書の購入は可能です。  
廣川書店へ直接ご注文ください。

< 廣川書店・連絡先 >  
TEL: 027-322-4804  
Mail: [takasaki@hirokaawa-books.co.jp](mailto:takasaki@hirokaawa-books.co.jp)  
※本文の購読は、必ず、大学名、学生番号、氏名を明記して下さい。



### 清々しい年明け

皆様にとって素敵な1年になりますように。

